

観 点	出 題 の ね ら い	問 題 番 号	正 答 率		
			小 問	大 問	観 点
活 用 の 能 力	歴史地図の活用法と内容の読みとり 能力	2 (1)	53.9	51.5	
		(2)	49.0		
	統計資料(円グラフ・棒グラフ, 数 表)の読みとり能力	3 (1)	74.6	42.5	
		(2)	39.3		
		(3) ア	42.9		
イ		66.1			
ウ	13.2	(40.7)			
(4)	19.0				
3 社 会 的 思 考 ・ 判 断	織豊政権の統一事業の歴史的意義の 考察	1 (1)	28.0	47.4	51.2
		(2)	48.3		
		(3)	76.8		
		(4)	61.7		
		(5)	38.8		
		(6)	30.7		
	産 業 革 命 の 時 期 ・ 内 容 ・ 社 会 的 変 化 に つ い て の 総 合 的 な 考 察	2 (1)	39.0	57.8	
		(2)	64.9		
		(3)	52.0		
		(4)	66.6		
			66.6	(66.6)	
	条 約 改 正 に 払 わ れ た 外 交 的 努 力 と 社 会 的 背 景 に つ い て の 年 表 に よ る 考 察	3 (1)	74.4	48.8	
		(2)	42.7		
(3)		33.2			
(4)		44.9			
総 平 均					51.9

(2) 結果の考察

(1) 地理的分野の概要

全体の平均正答率 51.3% である。

三つの観点別正答率は、「知識・理解」が 50.4%、「資料活用の能力」が 62.7%、「社会的思考・判断」が 42.6% であり、観点別にかなりの差がみられる。

「資料活用の能力」が高い正答率を示したのは、3問とも資料そのものが比較的単純で、基礎的事項にかかわるものであり、資料を用いて地理

事象を確かめたり、地理的事象相互の関係をは握し、考察を深める指導に努力している結果でもあろうしかし、小問ごとには、かなりの差がみられる。

「知識・理解」は、2のC群にみられるように(44.0%)、(34.9%)の正答率であるが、主要地域の特色をとらえさせるためには、教材の重点化をはかり、効果的な指導過程をくふうする必要がある。

「社会的思考・判断」は、1「世界の農牧業地域の立地条件」が 39.5%、2「アフリカの石油問題」が 47.9%、3「日本の農業および工業問